

令和8年2月定例会 一般質問（令和8年3月6日⑤）

中川 あきひと 議員



大阪維新の会大阪府議会議員団の中川あきひとです。通告に従い順次質問させていただきます。

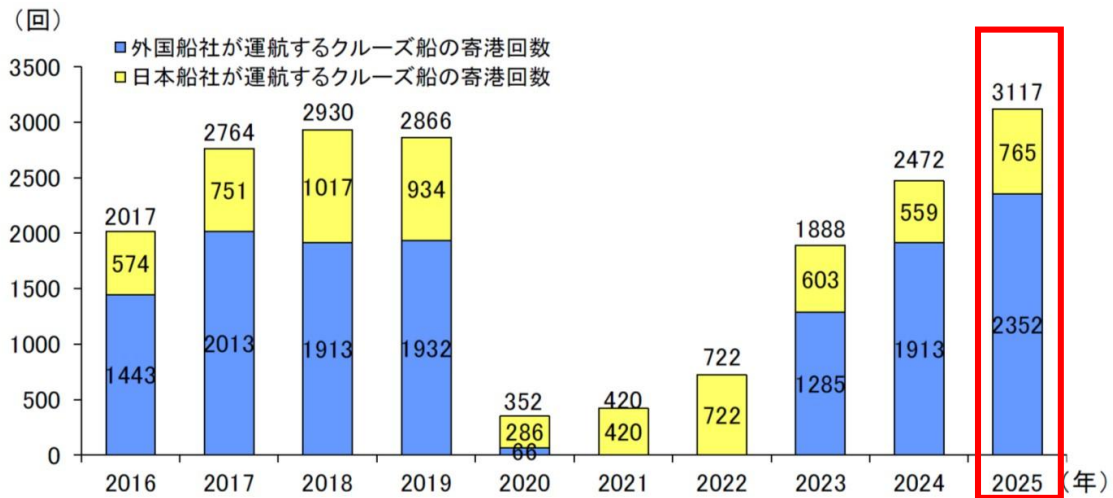
1. 外国クルーズ船の誘致に向けた取組

まず初めに、外国クルーズ船の誘致に向けた取組についてお伺いします。

この「外国クルーズ船」という呼称ですが、外国から来るクルーズというのではなく、外国船社が運航するクルーズ船という意味であることを念のためご説明させて頂き、質問に入らせていただきます。

2024年3月、日本を代表するクルーズ船「飛鳥II」が5年ぶりに堺泉北港を寄港した際には、私も現場でお迎えしましたが、乗船客が観光バスやタクシーに分乗して地元堺をはじめ府内各地を観光しており、クルーズの寄港が地域のにぎわい創出や、ひいては大阪全体の経済や観光客の増加につながると確信しました。

日本の港湾へのクルーズ船の寄港回数（2025年速報値）



※ 2025年の値は、港湾管理者からの聞き取りによる速報値であり、今後変動する可能性がある（以下、同じ）。

<出典>国土交通省港湾局「訪日クルーズ旅客数及びクルーズ船の寄港回数」を一部加工

1

国土交通省の発表では、2025年にクルーズ船で日本を訪れた外国人の旅客数は176.7万人、また我が国の港湾へのクルーズ船の寄港回数は3,117回となっており、このうち外国船社が運航するクルーズ船が2,352回で約75%と高い割合を占めています。

また、大阪港湾局によると、大阪港における昨年1年間のクルーズ船の入港隻数は過去最高の84隻、さらに今年の入港予定は、2月末時点で99隻となっており、そのほとんどが外国クルーズ船とのことです。

コロナの収束以降、クルーズ船で海外から日本を訪れる外国人旅行者数は順調に回復しています。例えば、2025年に名古屋港が実施した調査によると、外国クルーズ船の経済波及効果は一隻当たり約4,600万円とされています。外国クルーズ船の寄港は大きな経済波及効果があり、また大阪港のバックアップの役割を果たすという意味からも、府営港湾においてもその誘致に力を入れるべきと考えます。

そこで、外国クルーズ船の誘致に向け、どのように取り組むのか大阪港湾局理事にお伺いします。

【大阪港湾局理事】

- 大阪港湾局では、大阪港の天保山をメインの客船ターミナルとして、府営港湾も含めた大阪みなと全体で「お断りゼロ」をめざし、府市連携による外国クルーズ船の大阪への誘致に取り組んでいるところ。
- 誘致にあたっては、大阪市内の観光地のみならず、百舌鳥・古市古墳群や勝尾寺など府内各地の観光資源の魅力をとりまとめ、国際クルーズ見本市への出展や外国クルーズ船の担当者を大阪の観光地に案内するなど、国内外でプロモーションを行った。
- また、府営港湾においては、岸壁の長さや水深等の条件からクルーズ客船の受け入れが可能である岸壁について、順次、外国クルーズ船に対応した環境整備を進めており、来年度は堺泉北港の大浜ふ頭において保安設備の整備を行うことで、外国クルーズ船の受け入れが可能となる。
- 今後とも、順次、外国クルーズ船の受入れ環境の整備を着実に進めるとともに、大阪全体の観光の魅力をアピールするなど、外国クルーズ船の誘致に全力で取り組んでまいります。

【要望】

大阪港湾局では外国クルーズ船受入れに向けて、ソフトとハードの両面で着実に取組を進めるとのことで、宿泊税を財源としたクルーズ船の受入環境整備を3月末までに完了させると聞いております。引き続き、着実に取り組んで頂くことをお願いします。

また、府営港湾には堺泉北港以外にも、魅力的な港がたくさんあります。こうした港は、岸壁の長さや水深の関係などから大型クルーズ船の寄港は難しいかもしれません。例えば、万博の会期終盤にはほぼ満席で大変好況であった堺旧港を発着していた万博シャトル、こうした小型船であれば、各港をクルージングするようなツアーが可能ではないでしょうか。

クルーズ船「guntû (ガンツウ)」



<提供>株式会社せとうちクルーズ

2

実際、昨年の8月に日本のラグジュアリー船「ガンツウ」が堺泉北港に寄港した際は、沖合に停泊させた船舶から小型船に乗り換えて堺旧港に入港するなど工夫を行い、堺観光を楽しまれたと聞いています。

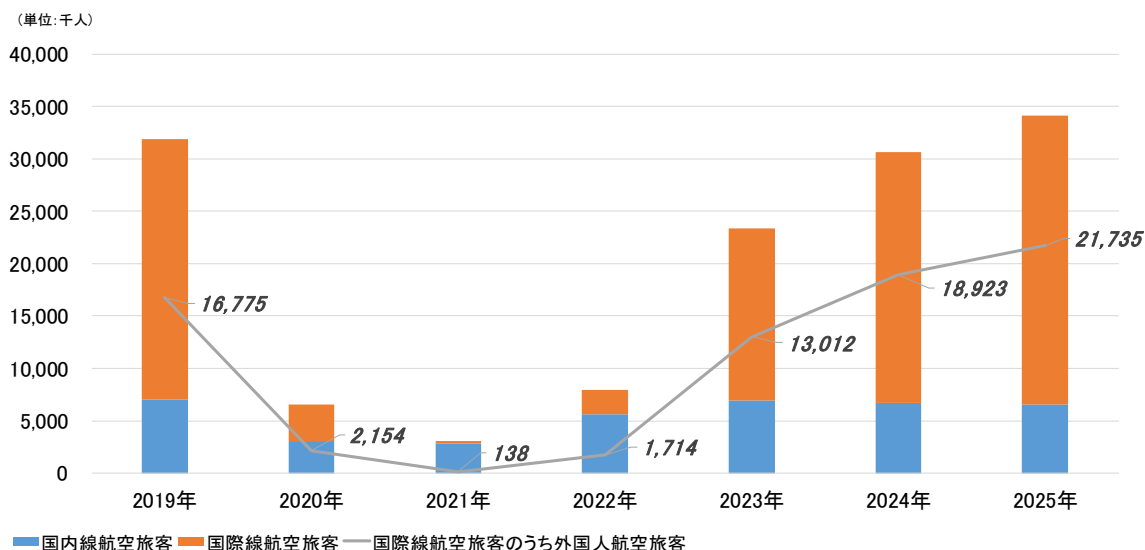
堺市や高石市の工場夜景、だんじりや布団太鼓などの秋祭り、夏の花火大会など、泉州地域には歴史・文化的資源や産業資源、伝統的な祭り、イベントや温泉など魅力ある地域資源が豊富にあり、各港や船の体験と絡めてそれらを上手く発信すれば、クルーズ船社に対して効果的に泉州地域のPRが出来るのではないのでしょうか。

引き続き、大阪の湾岸エリアのにぎわいに繋がるよう、クルーズ船誘致にしっかりと取り組んでいただくようお願いいたします。

2. 地域の魅力を活用したナイトコンテンツの創出

次に、地域の魅力を活用したナイトコンテンツの創出についてお伺いします。

関西国際空港における航空旅客数の推移



<参考>関西エアポート株式会社 ホームページ

※2025年は速報値

3

2025年の関西国際空港国際線の外国人旅客数は、万博の効果もあり、コロナ禍以前を上回って過去最高を記録しました。現在は、昨今の国際情勢の影響を受けて、一時的に落ち込んでいるものの、今後、年間発着回数を30万回まで引き上げていく中で、旅客数はますます拡大していくものと思われます。関空に降り立つ観光客に、今後も大阪が選ばれ滞在していただけるよう、その魅力を一層高めていく必要があります。

そこで、大阪は宿泊者数も多いことから、「夜」を楽しんでいただける魅力的なコンテンツを充実していくことが、観光客の満足度を高め、リピーターの確保を含めた、さらなる観光需要の拡大にも有効だと考えます。また、コンテンツの創出にあたっては、府内各地の地域資源なども活用することで、夜の時間帯を含めた各地への誘客が促進され、結果、コロナ禍以前のように終電時刻が延長されるなど、観光消費の拡大に向けた好循環が生まれるのではないのでしょうか。

私の地元堺市では、昨年10月、大仙公園において、仁徳天皇陵等の古墳群や堺の街並みを、上空100mの気球から楽しむことができる「おおさか堺バ

ルーン」の運行が始まりました。既に多くの観光客がその雄大な眺望^{ちょうぼう}を体感されているとのことで、新たな観光の目玉になればと期待を寄せています。また12月には試行的に夜間運行が数日間行われ、大阪府は堺市との連携のもと、公園内のライトアップやプロジェクションマッピングを行い、多くの方々に幻想的な空間を楽しんでいただいたところです。夜間運行の本格実施には時間がかかるとは思いますが、ナイトコンテンツとしても大きなポテンシャルがあると感じました。

そこで、地域の魅力を活用したナイトコンテンツの創出に向けて、どのように取り組んでいくのか、府民文化部長に伺います。

【府民文化部長】

- ナイトコンテンツの充実は、大阪ならではの魅力を高めるとともに、来阪観光客等の夜間の活動を促し、観光消費の拡大にもつながる重要な施策であると認識。
- このため、来年度は、水都大阪のシンボルである中之島において、ナイトクルーズの充実に向けた取組みを進めるとともに、「大阪の継続的なにぎわい創出・発信事業」において、ナイトコンテンツを食やエンタメと並ぶ重要な柱と位置づけ、3年間継続して事業を展開することで、大阪の代名詞ともなるコンテンツとして定着させたいと考えている。
- これらの取組みにより、大阪の特色や地域資源等を活かした魅力的なコンテンツの創出・発信に、しっかりと取り組んでまいります。

【要望】

今後、新たなナイトコンテンツの創出や中之島のナイトクルーズの取組みを進めていくとのことですが、大阪市内のみならず、泉北の臨海地域の工場夜景もポテンシャルの高いコンテンツであり、海から観覧するナイトクルーズは、観光客にもきっと喜ばれるものと思います。コンテンツの創出という新たな取組では、府が率先して地元はその効果を示すことで市町村や民間等の参入を促し、さらなる事業展開が可能になると考えます。今回は、特に夜

に着目し、ナイトコンテンツの創出についてのご答弁をいただきましたが、日中を含め、様々なコンテンツを創出していくことで、府内を巡る人の流れをさらに促進させる取組をお願いいたします。

先ほどの質問で、クルーズ客船の誘致について取り上げましたが、特に、クルーズ船が寄港し、空港までのアクセス上にある泉州地域では、より多くの観光客が立ち寄り、長く滞在できるよう、周辺自治体と連携しながら取り組んで頂くことをお願いしておきます。

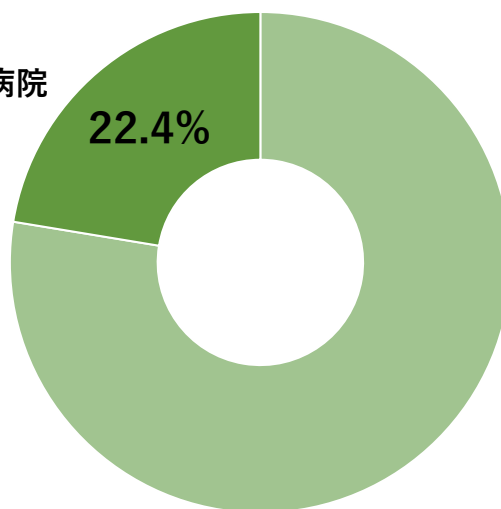
3. 外国人観光客の海外旅行保険の加入促進

次に、外国人観光客の海外旅行保険の加入促進についてお伺いします。

大阪観光局によれば、万博の開催効果も相まって、令和7年の来阪外国人観光客数は過去最多となる1,760万人に達する見込みとなっています。訪日外国人観光客が大阪で安心して滞在できる環境を整備するためには、交通インフラや宿泊施設等の充実に加え、医療面での受入体制を確保することが不可欠ですが、

外国人患者により未収金が発生した病院（令和6年度）

外国人患者により
未収金が発生した病院



n=192

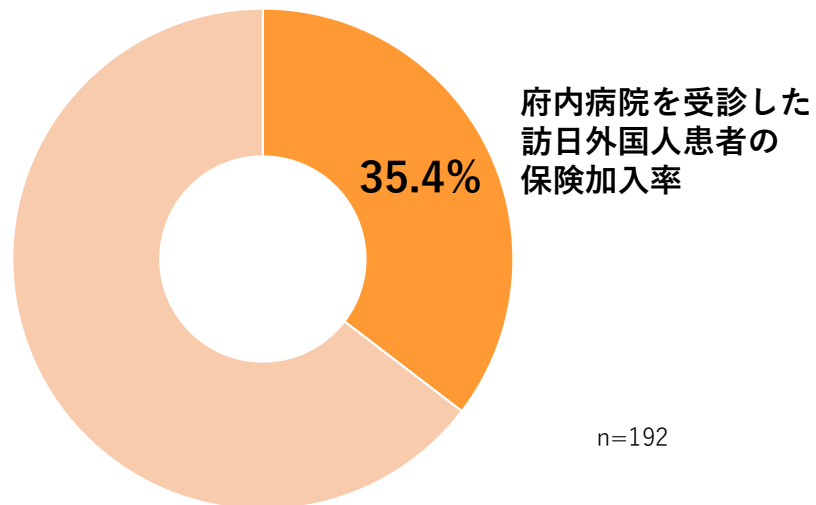
出典：健康医療部「令和7年度大阪府外国人患者受入れ実態調査」

府内医療機関においては、多言語への対応に加えて医療費未収金への対策が課題となっており、令和6年度に外国人患者による未収金が発生した病院は、全体の22.4%となっています。

こうした中、大阪府では、来阪外国人観光客向け動画による啓発や、令和7年度からは、新たに「海外旅行保険の加入促進」や「医療機関向け研修」、「未収金に対する損害保険加入やキャッシュレス化への補助」を実施していると聞いております。これらの取組の中でも、「海外旅行保険の加入促進」は医療費未収金の未然防止の観点から、重要な取組であると考えています。

国内5空港にて外国人観光客に対して行った国の調査によると、日本を訪れる外国人観光客の加入率は平成30年度・令和元年度・5年度でいずれも約7割と横ばいになっていました。

府内病院を受診した訪日外国人患者の保険加入率 (令和7年9月1日～9月30日)



出典：健康医療部「令和7年度大阪府外国人患者受入れ実態調査」

5

ところが、今年度府が府内医療機関に対して行った調査によると、令和7年9月に府内病院を実際に受診した訪日外国人患者の加入率は、不明を除くと約35%という極めて低い結果でありました。

この間、国の関係閣僚会議では「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」が決定され、「医療費不払のある訪日外国人の情報を共有す

るシステムの基準額引下げ」及び「対象の中長期在留者への拡大」といった取組が進められると聞いております。

昨年度の一般質問では、医療機関の未収金リスク低減はもとより、外国人観光客が安心して大阪に滞在できる環境づくりにもつながることから、「海外旅行保険の加入促進」について質問したところですが、国のこうした動きを踏まえ、大阪府として今後どのように当事業を展開していくのか、令和7年度における事業の進捗状況と併せて健康医療部長に伺います。

【健康医療部長】

- 海外旅行保険の加入については、観光庁が実施する、入国時の外国人旅行者への調査において、「保険を認知していなかった」「必要性を感じなかった」が保険未加入理由の8割を占めていることから、まずは保険加入の重要性について認知いただくことが重要と認識。
- このため、今年度は、海外旅行保険に関する情報を掲載したポータルサイトへの案内広告を、入国前の東南アジア4か国の方々に約16万回、関西国際空港やなんば駅といった滞在ポイント近辺におられる外国人観光客に約620万回配信した。こうした取組もあり、入国後の保険加入件数は、今年1月末時点で昨年度の2倍以上と伺っている。
- 国においては、入国前の保険加入に対する検討が行われていることから、本府としては、対象を入国後の外国人観光客に特化し、加入勧奨を進めることとしている。具体的には、来年度、保険加入者に対するインセンティブとして、保険会社や大阪観光局との連携により、府内の観光周遊チケットの割引特典を付与した啓発資材の作成に取り組んでいく。
- 本府としては、これらの取組を通じて来阪外国人観光客の海外旅行保険への加入を促進し、安心して大阪に滞在できる環境整備を着実に進めていく。

【要望】

外国人観光客等の医療需要増加に伴う医療費未払い問題について、昨年的一般質問に引き続き質問させて頂きました。医療費未払い問題の解決には、

未然防止の取組である海外旅行保険の加入促進に加え、外国人患者が安心して府内医療機関を受診できる環境づくりのため、医療機関に対するキャッシュレス決済機器等の導入補助の取組も不可欠です。国の動向も踏まえ、今後外国人患者による医療費未払い対策の取組をしっかりと進めて頂くようお願いいたします。

4. 府管理道路における自転車通行空間の整備

次に、府管理道路における自転車通行空間の整備について伺います。

現在、大阪府では「自転車通行空間10か年整備計画（案）」に基づき、令和7年度末までに、府管理道路約200kmにおいて、自転車専用通行帯や青矢羽根型路面標示などによる自転車通行空間の整備が進められています。来月4月から、自転車に対する取締りが強化されることを踏まえ、先の我が会派の代表質問では、自転車の基本的な交通ルールの周知に向けた広報啓発と自転車通行空間の整備に向けた取組について質問を行ったところです。

これに対する、都市整備部長のご答弁では、現計画の目標である延長約200kmについては、今年度末までに整備が完了する予定であり、来年度以降は、これまでの整備に加えて、市町村の自転車ネットワーク計画との接続など、更なる自転車通行空間の充実に向け、新たな計画を検討しているとのことでした。

私自身、安全に自転車などを利用してもらうためには、周知・啓発などのソフト面の施策の重要性に加え、ハード面による整備をさらに進めていくことが重要であると認識しています。そこで、大阪府で進められている自転車通行空間の整備効果と新たな計画策定の状況について、都市整備部長に伺います。

【都市整備部長】

- まず、「自転車通行空間 10 か年整備計画（案）」に基づき整備した区間における効果としては、自転車関連事故が約 2 割、車道における自転車の逆走が約 4 割減少したところ。
- また、新たな整備計画については、整備対象として、これまでの自転車関連事故や自転車交通量が多い区間などに加え、市町村の自転車ネットワーク計画に位置付けられた府管理道路や、既存の自転車通行空間との連続性が図れる区間を新たに追加することとしている。今後は、今月中にパブリックコメントを開始し、その意見を踏まえ、計画を策定することとしている。
- 引き続き、安全に自転車などをご利用いただけるよう、市町村や大阪府警察など関係機関とも連携し、更なる自転車通行空間の充実に向け、整備を進めていく。

5. 姉妹校交流支援事業の成果と展望

次に、姉妹校交流支援事業の成果と展望についてお伺いします。

府教育庁においては、府立高校及び一部の支援学校が、オーストラリアや台湾など様々な国や地域の学校と姉妹校提携を締結し、学校訪問により異なる文化・生活習慣を持つ同年代の若者との交流活動を通して、実践的な英語力を向上させるとともに、臆せず、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとするマインドを備え、国内外で活躍する人材を育成する「姉妹校交流支援事業」を今年度より進めていると聞いております。

そこで、本事業における今年度の成果と今後の展望についてお伺いいたします。

【教育長】

- 「姉妹校交流支援事業」につきましては、今年度、府立高校の生徒 700 名以上が海外の姉妹校を訪問し、授業や学校行事に参加したり、ホームステイをしたりするなどの交流を行った。その結果、参加したほとんどの生徒が「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が高まった」と回答しており、本事業が生徒の英語によるコミュニケーション意識の向上に大きく寄与しているものと認識。

- 府教育庁では、この取組みをさらに拡大するため、各校の特色や生徒の状況に応じて、新たな姉妹校提携の締結を進めており、次年度には 1500 名以上の府立高校生が交流に参加可能となる予定。
- 令和 9 年度までにすべての府立高校が姉妹校提携を締結し、多くの生徒が有意義な交流を行えるよう、引き続き支援に努めてまいります。

【結び】

近年、大阪では海外からの観光客の増加に加え、万博をはじめとする国際イベントの開催など、世界との距離がますます近くなっています。こうした時代において、若い世代が異なる文化や価値観に触れ、臆することなくコミュニケーションを図る力を身につけることは、これからの社会で活躍するうえで非常に重要であると考えます。

オーストラリア クレイグスリー州立高校と府立佐野高等学校の 友好校締結調印式



<出典>大阪府立佐野高等学校 ホームページ

6

パネルはブリスベンにあるクレイグスリー州立高校で、府立佐野高校との友好校締結調印式の様子です。クイーンズランド州教育省や在ブリスベン日本国総領事、府教育庁の皆様など多くの関係者が出席されたと伺いました。調印式後の授業見学では、日本語の授業でちょうど「友」という漢字の書道

を練習していたようで、友好校締結にふさわしい場面として大変印象的です。

このような交流は、単なる語学学習にとどまらず、世界と渡り合うための第一歩となり、若者が国際社会に向けて視野を広げる大きなきっかけになるものと期待しております。今後とも、多くの生徒がこうした貴重な経験を得られるよう、本事業のさらなる充実と継続的な取組みをお願い申し上げ、私の一般質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。